

浜松観光ボランティアガイドの会

～太田副会長新年挨拶～

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

皆様にはつつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃のガイド活動、会の各種事業や運営につきましてもご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、本年はどんな事業が待ち受けているのでしょうか。

まずは1月15日から始まる「新人養成講座」を皮切りに、2月25日には「富士山の日ウォーキング」も実施すべく計画されています。NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」の放映も終わりましたが、浜松への観光リピーター客が増えることを期待します。

従来からの浜松城、浜松駅、浜松まつり会館におけるガイド活動に加え、犀ヶ崖資料館の管理運営では、委託されて3年間に5万人の来場者を迎えることができました。

このような大きな事業を任されるということは、会員一人ひとりが研鑽を積み「おもてなしの心」を大切に活動を続けてきた結果として必然なことであり、ボランティアガイドだから果たせたのではないかと思います。

さて本年11月にはボランティアガイドの会が設立されてから19周年を迎えることとなります。これもひとえに先輩諸氏が様々な困難を乗り越え、今日までボランティアガイド活動を継続されたことにあります。今後も会員総意で盛り上げ発展させようではありませんか。

常に健康にご留意いただいて「明るく楽しくやらまいか」の心意気で励んでまいりましょう。

副会長 太田 進(南ブロック)



「お城で初日の出」 浜松城天守閣にて



初日の出 (南区小沢渡海岸)

浜松城のガイドを始めて6年になる。天守閣の石段の上り下りを繰り返してきたが、この冬はぜひお城の初日の出を拝んで見たいと思った。私は八幡町生まれの中沢町育ちだが、元旦にお城へ登るのは初めてのことである。寒い朝になった。家内と二人、菩提寺である天林寺にお参りしてから登って行った。天守閣に近づくにつれ、ホラ貝の鳴り響く音に驚いた。5～6人の同好会のメンバーが開門を知らせていたのだ。風情がある。すでに3～40人の人たちが集まっていたので、揃って入城していく。6時30分だった。

初日は、ビルの谷間から顔を出した。富士山も淡く見え始める。

大晦日は雨模様だったが、からりとした日本晴れである。ただ、初日はビルの谷間からのぞくのでよく見えない。天守閣の角に人が集まって近づくのに限界がある。結局それぞれ誘い合って石垣の周りを巡ったり、富士見櫓へ行ったりして東の空を眺めた。毎年訪れるという人、晴れ着姿の人あり。職員の皆さんも総出で甘酒をふるまってくれた。皆さん今年もよい年になりますように。

南ブロック 小栗道雄



天守閣からの富士山

日本語指導と国立博物館のボランティアガイド

私は国際交流基金の「日本語パートナーズ」として昨年5月からタイで日本語指導の活動をしています。「日本語パートナーズ」事業は東南アジアの日本語学習者や日本文化に関心を持つ人々の学習意欲の向上、日本人との交流機会を増すために日本から人材を派遣するプログラムです。現在タイには69名が中高一貫校に派遣されています。パートナーズの年齢は20歳から68歳までです。派遣期間は昨年5月から本年3月上旬までの10カ月です。私が赴任している学校は首都バンコクの北隣のパトゥムターニ県にあるサイパンヤーランシットスクールです。中高一貫校で全校生徒数は2,200名です。日本語を選択している生徒は高等1～3年生が各24名います。日本文化を紹介する授業が中学1～3年生対象と日本語クラブがあります。タイの学校の教室は教科ごとに分かれていて、日本語専用教室があり、新築校舎でしたので静岡県と浜松市の観光ポスターを展示して日本への関心を高めるようにしました。



日本語教室にて高校1年生日本語選択クラスの生徒と一緒に

して「カレーライス」「巻き寿司」「から揚げ」「たこ焼き」を実際につけて試食することを行いました。これらの食材は現地でほぼ調達できます。食べることはみんな大好きでどれも大好評でした。

タイでの単身生活は7カ月が過ぎました。タイは毎日暑い日が続いていますが、電車、スーパー、デパートなどはエアコンの設定温度が低いので寒い思いをすることがあります。タイ料理は安価ですが辛い料理が多くて味付けがなじめないで、朝食と夕食は自炊しています。タイのアパートには台所がないので、ベランダで炊事しています。昼食は学校の食堂でタイラーメンや牛丼のようにご飯に惣菜を載せたものが20バーツ（約66円）で食べることができます。

バンコクの王宮の近くに「バンコク国立博物館」があり、世界遺産のバーンチアン、スコタイ、アユタヤ遺跡等からの出土品を展示しており、タイ国および周辺諸国の歴史を学ぶには絶好の施設です。この博物館には、ボランティア日本語ガイドグループが、水・木曜日にいますので行ってきました。ガイド内容は「仏陀の生涯を描いた壁画」「宗教美術」「王家の葬儀」「伝統工芸品」などです。日本語ガイドグループは1974年創立で、メンバーはバンコク在住の女性が約50名いるとのこと。立派な日本語ガイドブック「バンコク国立博物館の至宝」を制作して販売しています。毎年、新入会員を募り養成研修を行なうとのこと、浜松観光ボランティアガイドと同じシステムようです。メモを見ながら一生懸命にガイドしている新人らしき方とそれを見守っているベテランガイドの姿は、同じガイド仲間として共感しました。皆さんもバンコクに行く機会がありましたら、ボランティア日本語ガイドグループがいる日に「バンコク国立博物館」を訪問することをお勧めします。



日本語で来館者に仏陀の壁画を説明するメンバー

事業部主催「東小学校出前講座」

11月28日、東小学校にて、3年生52名を対象に出前講座を行いました。テーマは浜松まつりの歴史、凧作り、まつりに関するエピソードなどです。模造紙4枚、小さな凧、凧糸、テギを用意して、講師の杉本さんから説明がありました。**浜松まつりの歴史**：江戸時代の中頃、228年前から始まった。（庄屋の高林家に記録あり。他にも諸説あり）

①空き地で凧揚げを行う。②糸切り合戦を行う。③まつりとして一箇所では揚げる。1町1枚の凧を揚げる。④昭和38年に5月1日～5日（5日間）から5月3日～5日（3日間）となる。参加町は約60町から現在は174町。⑤凧糸は直径5mmの麻糸（中国産で1m約350円と高額）。⑥初凧：町内で生まれた子供のために揚げる凧、町内凧：糸切り合戦に使用する凧。

御殿屋台の歴史

①凧の運搬に大八車を使う。②まつりだからにぎやかに笛、太鼓をたたく。③歩きながらお囃子をする底抜け屋台となる。④床を付けた今の屋台の形となる。⑤道路が良くなると屋台も大型になり、彫刻が多くなり豪華になる。⑥現在御殿屋台を作ると1台8,000万円。材料費、人件費が高くなった。材料：ヒノキ、ケヤキ、杉、松。

用意した小さな凧は、筋交いを抜いて丸めて見せ、“この様にして大八車に載せた”と説明し、凧糸、テギは生徒たちに回覧しました。

殆どの子供が浜松まつりに参加しているようです。子供達は熱心に聴き、沢山メモを取っていました。なぜお囃子が出来たのか？凧揚げ会場はなぜ中田島砂丘なのか？なぜラッパを吹くのか？等の質問が沢山出て、講師の熱弁に負けない程反応が良く、元気のいい子供達でした。

かなり、熱のこもった講座内容であり、浜松まつりを長年経験した講師と、まつりに参加し始めた子供達との素晴らしいやり取りが展開された出前講座となりました。 事業部 戸塚正康（東ブロック）



生徒に説明する杉本さん

東ブロックミニ研修会 遠州三山と井伊家ゆかりの寺を訪ねて

12月2日、東ブロックから17名、西ブロックから3名（山田、柴田、三田さん）の合計20名が参加し、車7台で西楽寺、油山寺、可睡斎、妙日寺、三箇野古戦場を巡りました。袋井観光ガイドの平野会長が案内してくれました。

西楽寺では、住職さんの話を聞きました。袋井市最古のお寺で真言宗です。今川、豊臣、徳川氏との関係が深く、幕末の有栖川氏が立ち寄った場所でもあり、古文書が4,000以上あるとのこと。その後、本堂に案内されました。こけら葺きの屋根、色鮮やかな絵の入った格天井（ごうてんじょう）を見たとき、これをどのように維持していくのかなと思うと同時に、住職さんの熱弁、切実な語り口が理解できるような気がしました。

油山寺では、掛川城から移設されたという立派な山門を潜って、鮮やかな紅葉を見ながらお寺へと進みました。

可睡斎に行き昼食をとりました。その後、日本一大きいトイレの神様、火の神様、修行の部屋（寝て1畳、座って半畳）等の説明がありました。平野さんからは、お雛様1,200体を並べた苦労話がありました。40段位のエスカレーターがあり、ビルの中のようなイメージがしました。建物の西側には国宝彦根城を築城した井伊直勝、掛川藩主井伊直好の五輪の塔がありました。

妙日寺の寺紋は「井桁の中に橘」が描かれています。日蓮聖人の先祖で、井伊家から分家した豪族の貫名（ぬきな）氏の邸宅跡に妙日寺が建てられ、日蓮聖人の両親の希望で、この地に両親の墓が立てられたとのこと。

最後の三箇野（みかの）古戦場跡には、家康が座ったという石がありました。意外と小さかったです。又、袋井市指定文化財の木原大念仏について書かれた立て看板がありました。

今回のミニ研修会は、神社、鳥居、狛犬、灯籠、屋根、建築各部、門の様式等の座学実施三日後に行われたため、現物を見て興味深く観察した人が多かったと思われます。 東ブロック 戸塚正康



西楽寺にて住職の説明

11月28日午後から西ブロックのミニ研修が行われました。当日は、小春日和で、10月上旬の暖かさの中、家康家臣団の屋敷跡を訪ねるウォークとなりました。

近藤康用屋敷跡を皮切りに、本多作左衛門、山家三方衆、鶴殿兵庫頭、鳥居元忠、本多忠勝、松下之綱の順に回り、最後に東照宮に寄る約2時間のコースでした。西ブロック16名と小池広報部長の計17名が参加しました。



分器稲荷神社にて(西側に本多忠勝屋敷跡)

各屋敷跡とも、見知った場所ではありますが、屋敷跡の標柱が建ったことで、改めて浜松の街の歴史に思いを致すことが出来ました。ただ、欲を言えば、標柱だけでなく、各家臣の簡単な説明文や、7箇所の位置が一目で判る地図等の案内板も作っていただきたいものです。江戸時代の浜松城下の地図と照らし合わせることが出来れば、もっと興味が湧くのに勿体ないなど残念に思いました。浜松市民は元より、観光客にも歴史好きは多い筈。大火や戦火によって歴史的建造物の残らない浜松を、少しでも魅力的に見せる工夫をしていく必要があるのではないかと痛感しました。「浜松城+αの魅力発信」、私たち観光ボランティアガイドの会にも出来ることはきっとあるでしょう。それは何か? 今後少しづつ考えていきたいと思います。

西ブロック 大見美保子

12月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3箇所の他に「浜松駅観光インフォメーションセンター」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

複数回来城のあった団体

	*	名阪近鉄旅行(株)	11回	406名	
	*	(株)農協観光 群馬支店	2回	175名	
	*	川口市立医療センター	2回	107名	
	*	MST	2回	98名	
	*	(株)農協観光 岐阜支店	2回	88名	
	*	クラブツーリズム	2回	61名	
2日	土	(株)大栄鉄工所		45名	
		セリオ株式会社		31名	
3日	日	グリーントラベル		46名	
		青木バス株式会社		43名	
		アベイズム(株)		34名	
		読売旅行前橋営業所		25名	
		サカイ創建グループ静岡ブロック		21名	
4日	月	(株)農協観光		63名	
		久々利公民館		41名	
5日	火	公益財団法人富士霊園		28名	
8日	金	白州町文化協会		21名	
		岡崎額田旅行友の会		21名	
9日	土	台湾インバウンド		27名	
		大和ハウス工業(株)		25名	

10日	日	RS1207T	33名
11日	月	ハシニア連合会女性部	131名
		2017田中ブロック忘年会	28名
		アイユグループ立身出世ツアー	23名
		名駅カッコーツアー	21名
15日	金	(株)エース航空三鷹	65名
16日	土	RS1214(台湾)	38名
		JBグループ社員会中部支部	28名
18日	月	RMC(りんどう山の会)	23名
20日	水	道くさウォークみたけ	46名
23日	土	谷藤さんじ後援会	32名
		JR東海ツアーズ国内旅行部	20名
		* 上記以外に20名未満の26団体	321名

《犀ヶ崖資料館》

7日	木	都市公園現場視察	10名
		* 遠鉄バンビツアー13回	111名

《浜松まつり会館》

20名以上の団体客はありません

は ま ま つ 案 内 人 会 報 190号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946

浜松市中区元城町100-2(浜松城内)

TEL & FAX 053-456-1303

ホームページ <http://www.hama-svg.jp/>

浜松観光ボランティアガイド

検索



出生大名 家康くん

出生浪将 直虎ちゃん